

## 年末年始のご挨拶

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。本年も取引先の皆様、従業員の皆様、ご家族、地域の皆様に多大なるご支援を賜りましたこと感謝申し上げます。

さて、2023年は豊田市稲武の本社を拠点にした新体制でのスタートとなりました。新しい職場で新しい役割、従業員の皆さんにとって大きなチャレンジを一緒に向き合っていたいただき本当に感謝しています。世の中はコロナ禍での生活からニューノーマルとなり、弊社においても新モデルの立ち上がりなど、大きな環境変化に効率よく対応する為の施策を時代に先んじて打ってきました。精鋭のメンバーが揃った事で、現場変化が多い中でも品質は過去最高の状況を維持しています。量産事業に加えて、弊社だからできる付加価値の高い世の中の困りごとの仕事を受ける事ができる体制が整い、基礎固めができた年と総括いたします。

従来から取り組んできた工業ミシンのIoT化の取組は、本年度の経済産業省「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」の対象事業として、商社、ITベンチャーとコンソーシアムを締結し、実践を続けています。女性従業員の方にも協力をいただき、世界で初めて困り事をデータで可視化し解決していく事を目指しています。工業ミシンのIoT化がフェムテックという文脈で役に立つことは当初は想定できず、異業種でのコラボレーションがイノベーションに繋がるのだと実感いたしました。引き続き来年もパートナーと一緒に、世界の女性の職場改善に貢献できる事業としてまいります。

稲武の本社工場は上記のIoTの取組に加え、地元で長期間働いていただけるメンバーを育てる仕組み、トヨタ生産方式に代表されるムダの無い生産体制、製造現場の整理整頓（5S）など、海外や異業種の方など多くの方に見学に来ていただける工場となりました。今後も従業員の皆さんとより良い職場づくりを続けていきたいと考えています。

最後に私個人として経済産業省「大企業等人材による新規事業創造促進事業」の対象者に選ばれ、2か月間社会変革を起こすトランジションリーダー教育を若者に交じって受けてきました。これまでOPEN INABUを通じて断片的に取り組んできたことが、一つの筋の通った方法論と理解でき、地域、会社が直面している課題を長期の視点で俯瞰できるようになったと思います。このノウハウを事業の長期方針に活かしていきたいと考えています。

2024年も益々のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。皆様が  
健やかに新年をお迎えになりますよう、心よりお祈り申し上げます。

令和5年12月28日

トヨタケ工業株式会社  
代表取締役社長 横田 幸史朗